

平成28年度金沢大学附属中学校自己評価表

学 校 目 標 自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。 (1) 自ら考え学ぶ生徒 (2) お互いに認め合い、助け合う生徒 (3) 心身ともにたくましい生徒				
本校の経営方針 (1) 金沢大学の方針、規則に沿った学校運営を行う。 (2) 学校教育学類、大学院教育学研究科・教職実践研究科や他の附属学校園との連携を密にして、附属学校としての任務の遂行にあたる。 (3) 生徒や教職員の自発性を尊重しながら、教育目標や目指す生徒像の具現化を図る。 (4) 金沢大学附属中学校のよき伝統を受け継ぎ、より良い校風の樹立と継承をめざす。				
評価項目	目 標	具 体 的 取 組	評価	次年度への主な課題
教 務	1. 総合的な学習の検討	・総合的な学習の内容をE S Dの視点で見直す。	B	・再構築した総合的な学習を円滑に実施する。
	2. 学校行事の検討	・学校行事の年間計画（バランスのとれた配置）を検討する。	B	
	3. 教育課程の円滑な実施	・学習指導要領に対応した教育課程を円滑に実施する。	A	
生徒指導	将来、たくましく生きるための社会性の基礎を養う。	・清掃に意欲的に取り組むことができるよう積極的に指導する	A	・公共物や私物を大切に扱えるような道徳等と関連付けた指導。
		・公共物や私物を大切に扱えるように指導する。	B	
		・学校生活のあらゆる場面をとらえて挨拶の徹底を図る。	A	
教育実習	① 実習を通して、学生に教師の自覚・責任の意識および実践的な指導力を育成する。 ② 学生および大学院教職実践研究科の、実習に係る諸活動を滞りなく行う。	・教科の実習のみならず、学級経営や生徒指導など、様々な実習が行える計画、運営を行う。	A	・ストレートマスター院生が実習生と同じ活動になっており、違いを明確にする。 ・当初話があった会議への参加等、見える活動が少なく、個々の院生の活動状況が職員に見える手立てが必要。
		・大学との連絡や確認を密にとり、実習に係る取り組みの理解、共有を図りながら、計画、運営を行う。	B	
研 究	持続可能な社会づくりのために 1. 各教科等で学んだことを自分たちの現在や将来の行動につなげられる生徒を育てる。 2. 教材のつながりや能力・態度のつながりを意識し、生徒の深い学びを実現する授業づくりを目指す。 3. 持続可能な社会づくりに必要な資質・能力と各教科等の思考力・判断力・表現力等との関連性を明らかにする。	・各教科等の授業において、持続可能な社会づくりに関わるような内容で、生徒が自ら発見し取り組む、または生徒が問題意識を持って進んで取り組めるような課題設定を目指す。	A	・必要な資質・能力と教科等の思考力・判断力・表現力等との関連性をさらに明確にし、各教科等で身に付けることができる力を整理・統合していく。
		・能力・態度別に研究グループを編成し、研究授業やワークショップを積み重ねることで、対話的な学びや主体的な学びの過程を実現し、資質・能力の育成につなげる。	B	
		・教材のつながりや能力・態度のつながりを意識したカリキュラム開発を目指し、カリキュラムマップを作成する。そのことで、資質・能力の育成に関わるカリキュラム・マネジメントにつなげる。	A	
		・生徒、教員ともに事前・事後アンケートを実施し、持続可能な社会づくりに関わる成果や課題を見いだすとともに、これまでの研究とのつながりを図った実践を行い、各教科等の思考力・判断力・表現力と資質・能力との関連性を明らかにする。	B	
情報教育	1. 情報モラル教育の推進	・生徒に情報の扱い方（情報の入手、発信方法）を理解させ、責任ある適切な利用を指導する。	A	・情報の適切な扱い方について、繰り返し指導を行う。

	2. 情報機器の適切な利用の推進	・生徒・教員ともに情報機器の積極的な利用を促すとともに、情報機器の適切な運用や管理に務める。	A	・PC室やサーバー運用に大きな変更が出るため、生徒・職員ともに利用方法の理解が必要。
保健安全	1. 自他の心身の健康に対し主体的に関わる生徒を育てる。	・よりよい安全点検をめざし、生徒・教員が連携して取り組む。	A	・教員・生徒が自発的かつ積極的に学習環境の整美に取り組めるように指導の工夫・改善をする。
	2. 自他の安全に配慮できる生徒を育てる。	・生徒の自発的な清掃をめざして、指導の工夫・改善をする。	B	
	3. よりよい環境を積極的に創る生徒を育てる。	・学習環境の整美について、自発的に取り組める生徒の育成を目指し、指導する。	A	
第1学年	1. 個性を認め合う中で、自分と周囲を大切にする生徒を育成する。	・学級活動や学校行事等を通して自分の役割を果たす中で、お互いの良さを見つけ、認め合えるよう支援する。	A	・適切に考え自主的に行動できる生徒を積極的に支援し、周囲の生徒を巻き込むことで、考えて行動できる集団に近づくよう努める。
	2. 基本的な生活習慣と学習習慣を確立する。	・始業時間や提出期日を守り、授業中や朝終礼等でしっかりとした、聞く・書く・話す態度が身につくよう支援する。	A	
	3. 何事にも粘り強く、最後まで取り組む生徒を育成する。	・学級活動や学校行事等において、目標を持たせ目標を達成させることで、成功体験を味わうことができるよう支援する。	B	
第2学年	1. 学校生活全体の中で、自主・自律の精神を育て、自分達の行動への責任と豊かな人間性のある学年集団を育成する。	・授業や家庭学習等の学習活動を通して、よりよい学習規律や生活習慣が身に付くように支援するとともに、係活動、班活動、清掃活動等の当番活動で、一人一人に役割を与え、より多くの達成感が得られるように支援する。	A	・朝学習や清掃活動、委員会活動や学校行事等の様々な場面で、適切に考え、正しく判断し、自主的に行動できるような支援の強化。
	2. 中堅学年としての役割を自覚させ、後輩のよき手本、先輩のよき支えとなるような学年集団を育成する。	・委員会活動や部活動、行事等の縦割り活動の中で、自分達がとるべき行動を考えさせ、実行に移せるように支援する。	B	
	3. 周囲や自分を大切にさせ、学校内外において、感謝や敬愛の気持ちを行動に移せるような学年集団を育成する。	・職場体験や修学旅行等の対外的な活動を通して、社会性が身に付くように支援するとともに、日常生活全般の中に、道徳的視点を入れ、挨拶や個性・物を大切にする等の公共心が身に付くように支援する。	B	
第3学年	1. 互いに認め合い、思いやりの心を伝えられる生徒を育てる。	・互いのよさに目を向けさせ、共感的な人間関係を築けるよう支援する。	B	
	2. 自ら考え実行し、責任を持ってやり遂げる生徒を育てる。	・規範意識を醸成させ、学校生活におけるルールやマナーを守る中で、自分で考えて、実行し、やり遂げることができるよう支援する。	A	
	3. 学習意欲を向上させるとともに、目標の実現に向けて、協力し、高め合える生徒を育てる。	・互いに高め合う雰囲気を作るとともに、進路目標の実現に向けて最後まで努力できるよう支援する。	A	

評価基準

A：達成されている

B：ほぼ達成されている

C：あまり達成されていない

D：達成されていない